

Book Review

「歯界展望」別冊 子どもの口腔機能発達不全症 UPDATE 口腔習癖・食べ方・食生活指導を含めたアプローチ

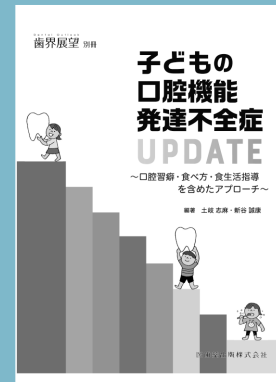
土岐志麻・新谷誠康 編著



Reviewer

弘中祥司 Shouji Hironaka
(昭和大学歯学部口腔衛生学講座教授)

A4 判変, 176 頁
カラー
定価 6,930 円
(本体 6,300 円+税 10%)
医歯薬出版刊
2023 年 5 月発行



著者らも述べているが、平成 30 年 (2018 年) に保険導入された、子どもの「口腔機能発達不全症」は、歯科医療機関で働く医療関係者はもちろん、保護者に話をしてみても、「???」とハテナマークがつくばかりで、何が問題で、どのように治療すればよいのか? または治療が可能なのか? 質問の多いところである。本書は、単に How To 本になっているのではなく、読んだ歯科医療関係者が、「なるほど!」「そうなのか!」と理解が深まる構成になっている点で俊逸である。

私も長年、摂食嚥下の仕事に携わっており、また、本病名の検討委員会にも名を連ねているが、二次元の本で「機能=動作」を伝えることは本当に難しく、真剣にパラパラ漫画化してみようかと思ったほどである。それゆえに、口腔機能(動作)の理解を深めようと思っても、文字ばかりではイメージが湧かない点も、本病名や口腔機能の理解が普及しない原因の一つと思っ

ている。

編著者の土岐志麻先生は、自分でもその点を十分に理解したうえで、さらにスタッフ教育にも資する本書を作ったのでは、との思いを構成から読み取ることができる。それは、日常の臨床からフィードバックされた内容であることもさることながら、ふんだんに使われたイラストや膨大な写真から理解することができた。またそれは、共同編著者である日本小児歯科学会理事長の新谷誠康先生も想いを同じにしたに違いない。

その昔蔓延した、小児の齲蝕洪水の時代の後には、歯肉炎の問題、歯列・咬合の問題などがクローズアップされ、現在までの小児歯科臨床の中心となっていることは間違いない。しかしながら、コロナ時代前後から口腔機能の問題へ、小児歯科医や保護者の抱える問題点は推移していることを実感する。「食べず嫌が多い」や「食事に時間がかかる」という保護者の心配事

を、「いつか食べられるようになりますよ」と、返答してはいないだろうか? 子どもたちに生じている問題を精査もせず、先送りにして、軽視してはならない。これまで軽視していたと思うなら、ぜひとも本書を熟読していただきたい。子どもの正常な発育が、いかにさまざまな環境因子によって獲得されていくのかが、美しいイラストや写真によって理解を深めてくれるであろう。

最後に、口腔機能のスペシャリストとして、特に目を引かれたのは、「巻末付録」(お口の機能の問診票等)である。口腔機能の臨床の第一歩として、これはぜひとも院内で活用していただきたい。しかもダウンロード可能な URL 付きなので、この付録だけでも本書を購入する価値はあると思う。これから小児の口腔機能を学ぶ人に、必携の書として推薦する。